



### ③ 幼稚園専門教科問題の解答について (注意)

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチックの消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「幼稚園」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
  - ア. 小問の解答番号は1から75までの通し番号になっており、例えば、25番を 

25
----

 のように表示してある。
  - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
  - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
  - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

(マークシート記入例)

フリガナ	ユウベタロウ	教科名	幼稚園
名前	神戸太郎		

受験番号	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
		[1] - [25]		[26] - [50]		[51]
数字で記入……	1	0 2 3 4 0	26	0 2 3 4 0	51	0 2 3 4
	2	0 2 3 4 0	27	0 2 3 4 0	52	0 2 3 4
	3	0 2 3 4 0	28	0 2 3 4 0	53	0 2 3 4
	4	0 2 3 4 0	29	0 2 3 4 0	54	0 2 3 4
	5	0 2 3 4 0	30	0 2 3 4 0	55	0 2 3 4
	6	0 2 3 4 0	31	0 2 3 4 0	56	0 2 3 4
	7	0 2 3 4 0	32	0 2 3 4 0	57	0 2 3 4
	8	0 2 3 4 0	33	0 2 3 4 0	58	0 2 3 4
	9	0 2 3 4 0	34	0 2 3 4 0	59	0 2 3 4
	10	0 2 3 4 0	35	0 2 3 4 0	60	0 2 3 4
	11	0 2 3 4 0	36	0 2 3 4 0	61	0 2 3 4

【1】 次の文は、「学校教育法第二十三条」の内容である。(ア)～(オ) にあてはまる語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

第二十三条 幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 1 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の（ア）を図ること。
- 2 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに（イ）を養うこと。
- 3 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び（ウ）を養うこと。
- 4 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、（エ）を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- 5 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と（オ）を養うこと。

- ① 思考力の芽生え      ② 全体的発達              ③ 表現力の芽生え  
④ 調和的発達          ⑤ 規範意識の芽生え      ⑥ 創造力の芽生え  
⑦ 豊かな想像力        ⑧ 話す力・聴く力        ⑨ 言葉の使い方

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
1	2	3	4	5

【2】 次の(ア)～(コ)は、次期幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)に述べられている5領域の内容の一部である。どの領域に属するか、①～⑤から選び、番号で答えよ。同じ選択肢を複数回使用してもよい。

- (ア) 絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。
- (イ) 自分で考え、自分で行動する。
- (ウ) 身近な物を大切にすること。
- (エ) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
- (オ) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。
- (カ) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (キ) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (ク) 先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。
- (ケ) 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- (コ) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。

- ① 健康    ② 人間関係    ③ 環境    ④ 言葉    ⑤ 表現

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
6	7	8	9	10
(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
11	12	13	14	15

【3】 次の(1)～(3)は、「幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集」(平成13年3月 文部科学省)に述べられているものである。(ア)～(オ)にあてはまる語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(1) 幼児期は、まず自分自身を充実させ、その力を外に向けて広げていく時期である。そこから自分の(ア)が外にあふれていき、外の世界へのかかわりへと展開していく。そのかかわりが広がるにつれて、次第に外の世界にある諸々の人やものの存在に気付き、その特徴が分かってくる。自分がどうかかわると、外の世界の諸々が各々独自の特徴をもって、どう反応していくかの見当が付き、その面白さや不思議さに気付いていく。しかし、同時に、幼児は自分の思うようにならない現実におつかり、ものが思うように動くとは限らない、人が自分の思い通りに行動してくれるとは限らないということに気付くことが大切である。

(2) 発達の基本として自己を発揮できることが始まりにあるが、その更に根本には、(イ)と認められ、何をしようとその場に受け入れてもらえる安心感をもつことが必要である。受け入れてもらえるとは、悪いことをしようとする、すべて是認されるというのではない。仮によくないと叱られたとしても、その根底には受け入れてもらえるという(ウ)が成り立っていることである。

(3) 大勢のための社会のルールを意識する中で、(エ)ようになることが、道徳性の発達にとっては大切である。そのルールが自分の内面から発する思いと結びつくことに向けて、幼児期においては、いずれ社会に通用するルールに発展するその芽生えと幼児の心の思いとの結びつきができるように援助するのである。

いかなる社会のルールが重要かは、自己の発達の流れに沿いつつ、自他の関係と(オ)の中から理解されていくと同時に、幼児の属する家庭や幼稚園、あるいは地域などのルールに気付くことによって支えられる。

- ① 集団形成の経験      ② 感情      ③ 基本的な信頼関係  
 ④ 自分がそこにいてよい      ⑤ 心の思いや願いや力      ⑥ 自己発揮する  
 ⑦ ありのままでよい      ⑧ 自らを律する      ⑨ 物との関係

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
16	17	18	19	20

【4】 次の(1)～(3)は、「幼稚園教育要領解説」(平成20年10月 文部科学省)に述べられているものである。(ア)～(オ)にあてはまる語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(1) 障害のある幼児については、幼稚園生活だけでなく家庭生活や地域での生活も含め、長期的な視点に立って(ア)までの一貫した支援を行うことが重要である。このため、家庭や医療機関、福祉施設などの関係機関と連携し、様々な側面からの取組を示した計画(イ)を作成することなどが考えられる。

(2) 障害のある幼児の指導に当たっては、何よりも幼稚園の教師が障害のある幼児に対する理解を深め、その教育についての知識と経験を豊かにすることが大切である。そのためには、例えば、園内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを指名するなど、幼稚園の教職員全体の(ウ)をつくりながら、計画的、(エ)的に取り組むことが重要である。同時に、その幼児の日常の生活に支障がないように、あるいは安全を確保する観点から、施設や設備の整備、学級編制や教職員の配置への配慮をすることも大切である。

(3) 教師は、幼児への指導と併せて、保護者が我が子の障害を(オ)できるようにしたり、将来の見通しについての不安を取り除くようにしたり、自然な形で幼児とのかかわりができるようにしたりするなど、保護者の思いを受け止めて精神的な援助や養育に対する支援を適切に行うように努めることが大切である。

- ① 組織      ② 保育指導案      ③ 役割  
④ 受容      ⑤ 幼児期から学校卒業後      ⑥ 入園から卒園  
⑦ 継続      ⑧ 個別の教育支援計画      ⑨ 協力体制

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
21	22	23	24	25

【5】 次の(ア)～(オ)は、感染症の病名である。それぞれの症状・予後にあてはまる適切なものを①～⑨から選び、番号で答えよ。

- (ア) マイコプラズマ感染症
- (イ) 感染性胃腸炎
- (ウ) アタマジラミ
- (エ) 伝染性膿痂疹(とびひ)
- (オ) 手足口病

- ① 紅斑を伴う水疱や膿疱が破れてびらん、痂皮をつくる。かゆみを伴うことがあり、病巣は擦過部に広がる。
- ② 突然の発熱(39℃以上)、咽頭痛がみられる。咽頭に赤い発しんがみられ、次に水疱、間もなく潰瘍となる。
- ③ 咳、発熱、頭痛などのかぜ症状がゆっくりと進行し、特に咳は徐々に激しくなる。しつこい咳が3～4週持続する場合もある。
- ④ 頭皮に皮膚炎を起こす疾患。一般に無症状であるが、吸血部位にかゆみを訴えることがある。
- ⑤ 半球状に隆起し、光沢を帯び、中心にくぼみをもつ粟粒大から米粒大(2～5mm)のいぼが、主に体幹、四肢にできる。
- ⑥ 発熱と口腔・咽頭粘膜に痛みを伴う水疱ができ、唾液が増え、手足末端、肘、膝、お尻などに水泡がみられるのが特徴。
- ⑦ 下痢、血便、嘔吐、発熱。カンピロバクターでは、発症数週間後にギランバレー症候群という、末梢神経まひ疾患を併発することもある。
- ⑧ 嘔吐と下痢が主症状である。多くは2～7日で治るが、脱水、けいれん、脳症などを合併し、危険な状態になることもある。
- ⑨ 上気道感染では発熱と咽頭痛、咽頭扁桃の腫脹や化膿、リンパ節炎。治療が不十分な場合は、リウマチ熱や急性糸球体腎炎を併発する場合がある。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
26	27	28	29	30

- 【6】 次の文は、幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」(平成25年7月改訂 文部科学省)に書かれている事例である。この事例から読み取れる学級の実態として適切に捉えられているものを①～⑨から5つ選び、番号で答えよ。

3年保育 5歳児 1月

○コマ回しの場面で

- ・ J児、T児、U児が遊戯室でコマ回しをしている。「ヨーイ、ゴー」と、声を掛けて一斉にコマを回し、誰のコマが一番最後まで回っているかを競争している。J児が投げたコマが回らなかったで、すぐに拾ってひもを巻き直し、再び投げると、T児が「だめ、途中からやったらずるいぞ」と言う。
- ・ T児が直方体の箱積み木を一つ床に置き、「この上から落ちたら負け」と言う。三人で一斉に投げってみるが、なかなか積み木の上で回すことができない。難易度が上がったことで面白さが増した様子で、J児もU児も繰り返し挑戦している。
- ・ M児は、コマのひもを巻くが途中でひもが緩んでしまう。何度も繰り返しやっていると、J児が「貸してごらん」と言ってM児のコマのひもを巻いて手渡す。受け取る途中でひもが緩んでしまい、投げってみるがうまく回らない。M児はまた、ひもを巻く。「始めに力を入れて強くひもを巻くといいんだよね」と教師が声を掛けると、J児が「最初に強く巻くんだよ。あとはそうっと」と、M児の手元を見ながら言う。

○ドッジボールの場面で

- ・ 園庭でドッジボールが始まる。「入れて。Kちゃん、赤? じゃあ、ほくも」とH児が赤のコートに加わると、それにつられて数人が次々と赤に移動し、白チームが2人になってしまった。E児に「だめだよ、Gちゃんは白」と言われてもG児は戻ろうとしない。E児は「誰か、ドッジボールする人いませんか」と周囲に呼び掛け、「ねえ、白に入ってくれない?」と友達を誘っている。
- ・ ドッジボールをしている途中で、チームが変わったり参加したり抜けたりする幼児がいてチームの人数が変わるので、E児が紙に書いておくといいいと言って、友達の名前とチーム名を紙に書き始めた。一人ずつチームを尋ねながら名前を書いていく。ドッジボールは中断し、みんなでE児を取り囲み、文字を書く手元を見つめている。(以下略)

- ① 遊びがより楽しくなるようにアイデアを出しているが、自分たちで遊びを進めようとする姿は見られない。
- ② 自分なりの目標をもって、関心のあることにじっくりと取り組んでいる。
- ③ 友達の得意なことが分かり、教えてもらったり、同じチームになろうとしたりする。
- ④ 教えてあげたい気持ちがあっても言葉で表現できず、やってあげたり、やってみせたりしている。
- ⑤ みんなで一緒に遊ぶよりも、それぞれが勝ちたい思いから、個々に遊びをすすめようとしている。
- ⑥ 遊びのルールを理解し、ルールのある面白さが分かっている。
- ⑦ ドッジボールでは勝敗を意識して遊ぶようになり、勝ちたい思いが先立ってはいるが、ルールはしっかり守っている。
- ⑧ ドッジボールでは人数が不均衡になると楽しく遊べないので、「強い」友達と同じチームになりたがる姿は見られない。
- ⑨ 得点を数えたり、チームの人数を数えたり書いたりするなど、遊びの中で、文字や数に触れている。

31	32	33	34	35
----	----	----	----	----



【7】 次の (ア)～(オ) の野菜について、それぞれ適切でないものを①～④から1つ選び、番号で答えよ。

(ア) サツマイモ

- ① 10月になると収穫できる。収穫がおくれると、甘みが落ちる。
- ② やせた土地や天候の悪いときでも元気に育つ。
- ③ 葉がたくさん茂って元気なのに、イモが大きくなるのは、肥料（チッソ分）が不足しているからである。
- ④ 夏になると、どんどんつるを伸ばす。

(イ) ジャガイモ

- ① 種イモから、芽がどんどん出てくる。勢いのよい芽を2本ずつ残して、他の芽ははさみで切り取る。
- ② 地上部の葉が枯れて黄ばんできたら、収穫の時期である。
- ③ 種イモをたてに2つに切り、切り口を上を向くように、切った種イモを植える。
- ④ ナス科の植物である。

(ウ) ニガウリ

- ① 黄色くならないうちに、収穫する。
- ② グリーンカーテンとして利用されるほど高温乾燥に強い。
- ③ 病気には非常に強く、ほとんど薬剤散布は必要ない。
- ④ ナス科の植物である。

(エ) ミニトマト

- ① 全体が赤く色づいたら収穫する。取り遅れると実が割れたり、落果したりする。
- ② 高さが20cmぐらいになったら、支柱を立てる。
- ③ 同じナス科の野菜を栽培した場所でも、連作障害発生のリスクは高まらない。
- ④ 原産地であるアンデス地方の気象と同じように、日当たり、風通し、排水のよいところが適地である。

(オ) ピーマン

- ① 辛味のない大果系品種を「パプリカ」と呼ぶ。
- ② 日当たりがよく、水はけ、水もちのよい肥沃な場所を好まず、土質をあまり選ばない。
- ③ ナス科の野菜を栽培した跡地での連作は、生育障害を伴い、病害発生の要因ともなる。
- ④ 果実は完熟するにしたがって、緑色から赤や黄色に変わってくる。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
36	37	38	39	40

【8】 次の (ア)～(オ) は絵本の書名である。それぞれの絵本の一部分をA群から、作者名をB群から選び、番号で答えよ。

- (ア) いたずらラッコとおなべのほし
- (イ) そらいろのたね
- (ウ) おしゃべりなたまごやき
- (エ) ぐるんぱのようちえん
- (オ) おたまじゃくしの101ちゃん

A群

- ① 「しまった。かぎなんかもっていたら、とをあけたことが、わかっちゃうな。ええい、こんなもの、すててしまえ」
- ② 「あいては つよいから、しっかり かたまって スクラムだ。」  
「それいけ、おかあさんを たすけに いけ！」
- ③ うみぜんたいが ぐらぐらと ゆれたかと おもうと、いなずまのようにひかる 大きなものが、おちかかってきました。
- ④ きつねも やってきて、  
「うわあ すごい！ なんて おおきいうちだろう！」と、めを まるくしました。
- ⑤ みいちゃんは きゆうに ほっとして、ぼろんと ひとつ、がまんしていたなみだが おっこってしまいました。
- ⑥ ほんとに がっかりして びすけっとと おさらと くつと ぴあのを すぽ一つかーに のせて でていきました。

B群

- ① 西内 みなみ さく 堀内 誠一 え
- ② なかがわ りえこ 文 おおむら ゆりこ 絵
- ③ 寺村 輝夫 作 長 新太 画
- ④ 神沢 利子 文 長 新太 絵
- ⑤ かこ さとし 絵と文
- ⑥ 筒井 頼子 さく 林 明子 え

	(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
A群	41	42	43	44	45
B群	46	47	48	49	50

【9】 次の楽譜をみて、下の(1)～(5)の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(1) 楽譜の(ア)～(エ)に入るコードを①～④から選び、番号で答えよ。

- ① ア Em イ A ウ G<sub>7</sub> エ C
- ② ア Em イ Am ウ G<sub>7</sub> エ C<sub>6</sub>
- ③ ア Em イ A ウ G エ C<sub>6</sub>
- ④ ア Em イ Am ウ G<sub>7</sub> エ C

(1)	51
-----	----

(2) 楽譜の(オ)にあてはまる伴奏を①～④から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(2)	52
-----	----

(3) この曲は、何分の何拍子ですか。①～④から選び、番号で答えよ。

- ① 4分の2拍子    ② 4分の4拍子    ③ 8分の6拍子    ④ 4分の3拍子

(3)	53
-----	----

(4) この曲は、何調ですか。①～④から選び、番号で答えよ。

- ① ハ長調
- ② ト短調
- ③ ハ短調
- ④ ト長調

(4)	54
-----	----

(5) この曲の (カ) に入る休符と同じ長さの音符を①～④から選び、番号で答えよ。

- ① 8分音符
- ② 4分音符
- ③ 16分音符
- ④ 付点8分音符

(5)	55
-----	----

【10】 描画材について (ア)～(オ) にあてはまる最も適切なものを①～⑧から選び、番号で答えよ。

描画材の特徴	描画材
不透明。紙以外にも木、石、プラスチック、金属などにも着彩が可能。ペン先の細いものから、幅の太いものまで様々なものがある。金、銀もある。	(ア)
ロウ分が少なく、油脂が多いため軟らかい。軟質のロウを使っているためのびがよく、描画に適している。不透明。色を混ぜやすく、色面で覆いやすい。ぼかしやすい。	(イ)
透明性がある。ペン先の太さや形が様々あり、筆タイプのタッチでかけるものもある。広い画面に塗るのは適さない。	(ウ)
透明性がある。紙に色が定着しやすい。光沢のある紙、段ボール、木、プラスチック、ビニルなど様々なものに着彩が可能。広い画面に塗るのは適さない。使うときは、下に新聞紙などを敷き、養生するとよい。	(エ)
ロウ分が多くやや硬い。滑らかにかけるため、線描に適している。描画の場合、色はやや薄く、透明感が出る。色は混ざりにくく、それぞれの色ははっきりとしている。	(オ)

- ① クレヨン    ② パス    ③ コンテ    ④ チョーク    ⑤ 色鉛筆  
 ⑥ 水性ペン    ⑦ 油性ペン    ⑧ 顔料系マーカー

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
56	57	58	59	60

【11】 次のA群の(ア)～(コ)は、「次期幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)に述べられている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である。(ア)～(コ)の姿について説明しているものをB群の①～⑧から選び、番号で答えよ。

A群

- (ア) 健康な心と体                      (イ) 自立心                      (ウ) 協同性  
(エ) 道徳性・規範意識の芽生え      (オ) 社会生活との関わり  
(カ) 思考力の芽生え                  (キ) 自然との関わり・生命尊重  
(ク) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
(ケ) 言葉による伝え合い              (コ) 豊かな感性と表現

B群

- ① 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
- ② 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。
- ③ 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
- ④ 幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
- ⑤ 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
- ⑥ 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- ⑦ 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
- ⑧ 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえりながら関わるようになる。

- ⑨ 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
- ⑩ 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)	(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70

【12】 次の (ア)～(オ) の事項に最も関係の深い人物を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(ア) ドイツの教育者で世界で最初の幼稚園の創設者である。彼の哲学的な人間教育に根ざした幼稚園教育は、全世界の幼児教育界に普及し大きな影響を与えた。1837年、ブランケンブルグに教育所を創設。ここで、彼は幼児のための教育遊具「恩物」を考案製作した。「恩物」とは、自然に子どもを万物の神的な統一に導く神からの賜物という意味である。その実践のため、ここに「遊戯および作業教育所」を併設し、1840年、それを「幼稚園」と名づけた。

(イ) 詩人。東京に生まれる。1918 (大正7) 年、鈴木三重吉の要請で『赤い鳥』に発表した「かなりあ」が成田為三の曲を得て、全国的に流行絶賛を博す。翌年詩集『砂金』を出版。その幻想的象徴詩で詩壇に地歩を固める。「かなりあ」発表以後、詩作と並行して童謡創作にも意欲を燃やし、『赤い鳥』『童話』誌上でつぎつぎと童謡を発表した。

(ウ) アメリカの心理学者。神経生理学以外の社会的条件とのかかわりを重んじ、知覚研究に新しい方向性を示した。共著としてまとめた『思考の研究』(1956)はその後の認知心理学の発展の基礎となっている。「どのような教科でも、どの年齢のどの子どもに対しても、知的性格をそのまま保って、効果的に教えることができる」と主張した。

(エ) オーストリアの動物学者。動物の行動観察を通して初期経験の重要性を示し、エソロジー (行動生物学・動物行動学・習性学・比較行動学) の分野を確立した。ガチョウのひなは、孵化後のかなり短い期間に知覚した最初の動く刺激対象物に対し、たとえそれがボールのような無生物であったとしてもそのあとを追いかけるといふ追従行動を見だし、これを刻印づけ・刷りこみと名づけた。

(オ) どんな子どもでも発達する力を内部にもっているという考えに基づき、教育者は、子どもの環境を整え、子どもをよく観察し、子どもの自由な自己活動を尊重し援助することが大切であるとしている。さらに、幼児期に、精神的発達の基礎として、感覚の訓練がとくに重要であるとの観点から教具をつくった。

- ① ルソー      ② ハウ      ③ 北原白秋  
④ デューイ    ⑤ フレーベル    ⑥ モンテッソリ  
⑦ 西条八十    ⑧ ローレンツ    ⑨ ブルーナー

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
71	72	73	74	75